

經濟論叢

第九十一卷 第三號

故 汐見三郎博士遺影

オーベル・シュレージエン

製鉄業の再編過程……………大野英二 1

ブレハーノフの

ロシア資本主義論(三)……………田中真晴 26

セルデン特許と

Electric Vehicle Co. ……………岡田賢一 49

故 汐見三郎博士略歴・主要著書論文目録……………61

追憶文(中谷実・柏井象雄・田杉鏡)

昭和三十八年三月

京大經濟學會

汐見先生の思い出

田 杉 鏡

汐見先生の主要な研究分野はいうまでもなく財政学であるが、そのほか金融論・統計学などにもわたり、きわめてひろい視野をおもちになった。財政学では藤谷謙二、柏井象雄、木下和夫の諸氏、金融論では中谷実、一谷藤一郎、小寺武四郎の諸氏が

直系の門下で、みな現在第一線で活躍しているが、経済理論の有井治、社会政策の平田隆夫の諸氏、経営学の私などが門下生として変り種のほうである。もとよりこのほかに先生のゼミナール出身で、直接、間接に先生の学恩をうけた堀江保蔵、青山秀夫の両氏とか、途中から先生と研究をともし、あるいは学界ではなくとも研究面で指導をうけた人々は枚挙にいとまがない。先生の門下生がかくも多いのは、先生の学殖がきわめて広い方面に及んだことと、寛容かつ慈味あふるる御人格のゆえと思われる。

二

私自身は一時、地方財政調査の手伝いをしたことがあるが、財政学にはほとんど関係なく、先生が昭和十五年ごろ学術振興会中小工業委員会の囑託として小島先生の中小工業金融研究を手伝うようにして下さったとき、金融問題ということとどうやら弟子の仲間入りができたというべきだろうか。しかし私の関心がまもなく中小企業論、工業経営論へと移るに及んで、ますます不肖の弟子となってしまった。けれども先生は決してこれをとがめずに小島先生とともに私の研究を鼓舞して下さった。そして先生が大企業や中小企業へ招かれたとき、たとえば戦前三井鉱山の三池鉱業所とか、新居浜および大阪附近の住友系諸業所などの視察に私をつれて行って、勉強の機会を与えて下さ

った。戦前から多数の工場、鉱山を見たから、ダイヤモンド社の石山賢吉氏のような工場視察記をまとめてみよと先生から言われたこともあるが、いまだに果していない。

三

ここ十年ほど人間関係論を研究テーマのひとつにしているうち、考えてみると汐見先生が門下生の指導においてリーダーシップ理論をそのまま実践しておられたことに気がついた。指導者はみずから何もかも命令強制したり、それどころか、いったん命令したことを取りあげて自分でやってしまったりするの

はなく、重要な方向や指針を与えて、若い人々の自主的な努力をひきだすべきだし、また人々にはそれぞれ違った才能や関心があるから、現代のように複雑な時代には、これらの人々を自由な空気のなかで協働させることが必要とされる。さらに若い人々がなにかの問題で行き詰まれば的確な指導や援助を与える。このような民主的なリーダーシップの典型を先生は身をもって示してこられた。戦後さらに広い分野で活躍され、いっそうひろい視野から、われわれをお導き下さろうというときに、恩師の御逝去を見たことは何といっても悲しいきわみである。